

## 中部圏の更なる地域力向上に向けて ～定量評価からの考察～

### 定量評価・国際地域間比較に基づいた 中部圏の地域力向上に関する調査研究 ～概要版～

2023年6月

公益財団法人

中部圏社会経済研究所

- 本調査研究は、有識者による研究会『定量評価に基づく地域力向上研究会』を組成し、検討を行いました。

座長	久保 隆行	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 副学部長・教授
委員	阿部 和俊	愛知教育大学 名誉教授
	加藤 義人	岐阜大学 工学部 客員教授 公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター 特任アドバイザー
	山崎 朗	中央大学 経済学部 教授
	山本 匡毅	高崎経済大学 地域政策学部 地域経済学科 教授

(敬称略、五十音順)

- また、本調査研究の定量評価のためのデータ選定、抽出および分析に関し、公益財団法人九州経済調査協会のご支援・ご協力をいただきました。

### 【比較方法1ー比較圏域】

- ✓ 首都機能を有しない
- ✓ GRP規模が国内トップではない
- ✓ 製造業の比率が比較的高い

観点から、以下の4圏域を選定

- 米国：シカゴ・ネイパービル都市圏
- ダラス・フォートワース都市圏
- ドイツ：バイエルン州
- バーデン・ヴュルテンベルク州

### 【比較方法2ー評価項目】

中部圏が新たな時代に持続的発展を遂げていくために必要な要素を大きく3項目掲げ、各項目でより細やかな視点を踏まえて評価項目を設定

大項目	小項目	視点・ポイント
(1)付加価値創出	(1)-①産業創出力	新たな時代をにらんだ産業およびそれを創出するための投資および活動主体の存在
	(1)-②生産性向上	新たな時代の産業変化を踏まえながらの1人あたり付加価値の動向や、それを支える特許や新陳代謝の活性化
	(1)-③サステイナブル社会形成	GX（グリーントランスフォーメーション）のような新たな社会システム構築に向けた土壌の形成
(2)多様な人材の交流・集積	(2)-①ダイバーシティ	多様な人材が働き・学び・生活しやすい地域の形成
	(2)-②地域の魅力	興味をわく/期待できる/来たくなる/住みたくなる/関わりたいとなる地域の形成
(3)対外連携	(3)-①連携中核力	中部圏が周辺あるいはグローバルを主体的に巻き込みながら、地域のプレゼンスを高める環境
	(3)-②交通ネットワーク	中部圏の空間・時間的アクセシビリティといった連携条件

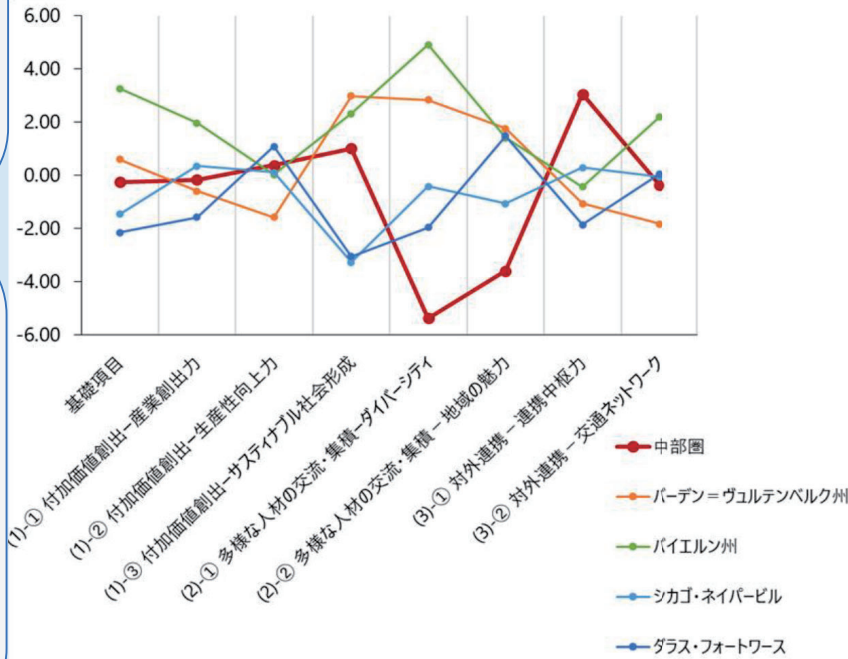
### 【比較方法3ー評価方法】

各評価項目における評価指標をZスコアで表し(※)、各指標におけるスコアを合算することで評価を総合化

$$Zスコア = \frac{(\text{個別圏域の値} - \text{全圏域の平均値})}{\text{標準偏差}}$$

※規模比較が適当でないものは、単位当たり比較値をZスコア化するなど正規化を実施

## 中部圏の更なる地域力向上に向けて ～定量比較からの考察～



評価項目	中部圏	バーデン=ヴュルテンベルク州	バイエルン州	シカゴ・ネイパービル	ダラス・フォートワース
基礎項目	-0.25	0.59	3.26	-1.45	-2.15
(1)-① 付加価値創出-産業創出力	-0.17	-0.59	1.97	0.35	-1.57
(1)-② 付加価値創出-生産性向上	0.37	-1.58	0.02	0.11	1.08
(1)-③ 付加価値創出-サステイナブル社会形成	1.01	2.99	2.32	-3.27	-3.04
(2)-① 多様な人材の交流・集積-ダイバーシティ	-5.37	2.84	4.91	-0.42	-1.96
(2)-② 多様な人材の交流・集積-地域の魅力	-3.59	1.76	1.40	-1.06	1.48
(3)-① 対外連携-連携中核力	3.06	-1.06	-0.43	0.29	-1.85
(3)-② 対外連携-交通ネットワーク	-0.37	-1.82	2.20	-0.07	0.06
総合	-5.31	3.13	15.66	-5.52	-7.96

### ①産業・社会構造転換へ柔軟に対応できる地域

- ✓ 他圏域では既存の産業構造転換に対応すべく多様な産業の成長に注力
- 中部圏でも、製造業（特に自動車関連）に依存する産業構造からの脱却に向けた足元からの着実な取組が必要

- ✓ 新しい時代に呼応する人材力強化定着
  - ・ 大学（教育）の活用と産学間連携
  - ・ 新産業の担い手（スタートアップ等）

### ②寛容性・QOL・ウェルビーイングの向上

- ✓ 外部人材や新しいアイデアを受け入れる風土、高度人材に（ビジネスも生活も）受け入れられる地域

- ✓ 日本の中央かつ低廉コストといった地理的・経済的合理性・優位性を活かすきれない→QOL・ウェルビーイングの向上が急務
  - ・ 都市の魅力や憧れ、癒される空間
  - ・ 子女の就学機会、自らの学びの場

### ③地域における中枢性（東京一極集中是正を主体的に導ける地域への更なる磨き上げ）

- ✓ 中枢性の形成（中枢機能の発揮）
  - ・ 「本社機能」が集積を生み出す
  - ・ 地域内外の多様性やネットワーク構築

- ✓ 中部圏のプレゼンス向上
  - ・ 低コスト・住みやすさを活かして新しい時代の日本の成長を牽引する姿を描き出す（新しい国土形成計画の方向性にも合致）

今後の中部圏を考える3つの視点